

cue

京都大学電気関係教室技術情報誌

NO.6 DECEMBER 2000

[第6号]

.....
卷頭言

名誉教授 池上文夫

.....
大学の研究・動向

光材料物性工学分野・プロセスエネルギー学分野

.....
産業界の技術動向

関西電力 森 詳介

新設研究室紹介

研究室紹介

博士論文概要

学生の声

教室通信

cue：きっかけ、合図、手掛かり、という意味
の他、研究の「究」（きわめる）を意味す
る。さらに KUEE (Kyoto University
Electrical Engineering) に通じる。

教室通信

宙空電波科学研究センター発足について

宙空電波科学研究センターは、平成12年4月1日、超高層電波研究センターが改組され新しく発足致しました。『宙空』は一般には馴染みの薄い言葉ですが、大空とそれに連なる惑星間宇宙を包含する領域を意味します。本センターは特に電波を共通の研究手段或いは対象としていることが特色です。宙空を占める地球大気や希薄な宇宙プラズマの諸現象の解明、及び電波の新たな利用手法の確立を行い、宙空電波科学という新しい学問体系の創造と、社会からのニーズに応えうる人材の育成を目指します。

宙空電波科学研究センターは3研究部門6研究分野2外国人客員分野で教官総数は20名（内3名は外国人客員研究員）の構成となります。まず地球電波科学研究部門（大気圏光電波計測分野、グローバル大気情報解析分野、大気循環科学分野（外国人客員））では、大型大気レーダー『MUレーダー』（滋賀県信楽町）を始めとする電波・光学設備を中心に、グローバルな観測データや数値モデルを用いた地球大気の電波観測と研究が行われます。一方、宇宙電波科学研究部門（宇宙電波工学分野、電波科学シミュレーション分野、宇宙電波環境科学分野（外国人客員））では、『電波科学計算機実験装置（KDK/A-KDK）』や文部省宇宙科学研究所の科学衛星・ロケットを用いた惑星間宇宙の電波探査や電波環境研究が推進されます。また電波応用工学研究部門（マイクロ波エネルギー伝送分野、レーダーリモートセンシング工学分野）では、『マイクロ波電力伝送実験システム（METLAB）』を用いたマイクロ波エネルギー送受電基礎技術と、先端的な大気レーダーリモートセンシング技術の開発、並びに、それらの利用手法の確立が目指されます。さらにスケールの大きな宇宙太陽発電システムの研究や、A-KDKとMUレーダー/赤道における大気レーダーによる国際共同研究の推進は関連部門が協同して当たることになっています。また、本年度中に『宇宙太陽発電所送受電システム』が導入される他、『赤道大気レーダー』も初めて赤道直下のインドネシアに設置される予定になっています。新センターとなって、これらの設備を中心とする国際的な共同研究により、独創的な宙空電波科学研究を一層進展させてゆきたいと願っております。

本センターの教官は情報学研究科通信情報システム専攻および理学研究科地球惑星科学専攻の構成員であり、積極的に大学院教育に貢献しています。また従来通り電気電子工学科の学部学生の教育・卒業研究指導にも当たっております。関係各位には、従前にも増して新センターを支えていただきたく、変わらぬご理解とご支援をお願いすると共に、学生の進路指導・就職等につきましてもこれまで同様にご配慮くださいます様よろしくお願い申し上げます。

編集後記

今世紀最後の発刊となります「cue」第6号を皆様にお届けいたします。1998年6月の創刊号からこれまでの短期間におきましても、電気系関係教室では種々の新設講座が開設され組織名の変更や改組も多く見られます。「cue」は来世紀も情報発信を続けて参りますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。（Y.K.記）

おわびと訂正

cue第5号の「学生の声」欄(49ページ)におきまして、編集上の不手際により著者の方のお名前を誤って掲載してしまいました。関係各位にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びしてここに訂正させていただきます。

=====

誤：美船 健殿

正：美船 健

=====

発行日：平成12年12月

編集：電気電子広報委員会

藤田 茂夫、奥村 浩士、小野寺秀俊、
萩原 朋道、川上 養一、木本 恒暢、
垣本 直人、尾上 孝雄

発行：電気電子広報委員会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部電気系教室内

E-mail: cue@kuee.kyoto-u.ac.jp

印刷・製本：株式会社 田中プリント